

令和5年度 第3回ニセコ町観光審議会 議事録

1 日 時

令和5年（2023年）7月19日（水） 17:00～18:20

2 場 所

ニセコ町役場 3階 町民ホール（議場）

3 出席者

委 員 下田委員（会長）、菊井委員（副会長）、荒井委員、高久委員、
谷田委員、高井委員、桑添委員、若杉委員（8名）

ニセコ町 山本副町長
（事務局） 商工観光課 阿部課長、三上参事、川埜係長、米田主査、深澤主任

4 内 容

(1) 山本副町長挨拶

お忙しい中観光審議会にお集まりいただき感謝申し上げます。今年度3回目の開催ということで、昨年策定した観光振興ビジョンを踏まえて、どの程度まで進捗しているのかというところを今一度チェックいただき、忌憚のないご意見をいただきたいと考えている。事務局からの説明の後で、ぜひたくさんご議論いただければと考えているので、よろしくお願ひしたい。

(2) 議題・意見交換

「観光振興ビジョンのフォローアップ、観光政策の意見交換について（資料1）」について事務局より説明を行った後、意見交換を行った。

【観光振興ビジョンのフォローアップについて】

〈米田主査〉

観光振興ビジョンのフォローアップについて、簡単に概要を振り返ると、そもそもの位置づけとして、第5次ニセコ町総合計画という大きな計画の下、観光分野の取組に関する計画が観光振興ビジョンである。

策定の背景として、①観光需要の季節変動、②観光経済波及効果の向上、③二次交通（域内交通）の機能強化、④国際的な競争力の向上、⑤町民の観光に対するコミットメント（理解と参画）の5つが課題としてあり、パウダースノーや自然といった強みを生かしつつ、北海道新幹線や高速道路の延伸も踏まえ、災害やパンデミック、過剰な観光開発等によるオーバーツーリズム対策等に取り組むために策定したものとなっている。

背景を踏まえて、「町民や観光客から信頼される、持続可能な国際リゾート」を目指す将来像として設定し、①成熟した通年型の国際リゾート、②高品質・高付加価値の国際リゾート、③町民が誇れる国際リゾートの3つを具体的な将来像として掲げているところである。

目指す将来像の達成に向けて、3つの基本戦略とそれに紐付く形で施策の方向性をそれぞれ3つずつの合計9つ掲げているところである。1つ目の戦略は「観光産業の安定的な経済活動と地域貢献」であり、方向性として1-1：季節変動の平準化と雇用の安定、1-2：観光事業における域内調達率の向上、1-3：観光事業者の地域コミュニティへの貢献を設定しており、1-2については地産地消の促進等が例として挙げられる。

2つ目の戦略は「観光客の多様な価値観への対応と受入環境の整備」であり、方向性として2-1：観光客の特別な観光体験の提供、2-2：観光客・町民の地域資源、2-3：安全で快適に観光できる受入環境の整備を設定していて、2-1はアドベンチャーリズム等の着地旅行、2-3は二次交通や防災の観点も踏まえた環境整備が挙げられるところである。

3つ目の戦略は「観光によって町民生活の質を高める」であり、方向性として3-1：観光客の環境配慮型行動の喚起、3-2：地域の魅力や観光の取組の情報発信、3-3：観光関連の起業を増やし、自然・文化の継承に寄与ということで、例えばニセコールの周知等が3-1の具体例として想定されるところである。

ここから本題に入り、今回の議題であるフォローアップについては、ビジョンで設定した6つのKPIの進捗状況をご説明するとともに、環境に関する新たな指標の事務局案についてご審議いただければと考えているところである。

指標1の観光消費額について、2022年度の実績は532.4億円とすでに目標(530.0億円)を達成したところである。観光客の単価の上昇が要因として考えられるところであるが、コロナが開けて一気に消費が増加したということも想定されるので、2023年度の結果を見て、リベンジ消費の有無について注視していきたいと考えている。

指標2の延べ宿泊者数について、2022年度の実績は55.1万人とコロナ前比約7割の回復状況であった。オフシーズンの宿泊者数の底上げや日帰り客の宿泊化等施策の方向性でも掲げた季節需要の平準化に取り組むことで、2028年度に80万人を目指していく。

指標3の観光客満足度について、2022年度の実績は40.1%とすでに目標(30.0%)を達成したところ。指標1同様に2023年度の結果を注視しつつ、結果次第では目標の上方修正を検討したいと考えている。

指標4のリピーター率について、2022年度の実績は78.3%と2020年度以降順調に減少してきているところ。地域の魅力の新規創出により、新しくニセコに来ていただける方を掘り起こすことで、2028年度に70%を目指していく。

指標6の観光で生活が豊かになると思う町民の割合について、複数年に1回調査を実施していて、今年度に調査を実施することとなっており、足元の実績はないものの、2028年度に60%を目指すことを目標として掲げている。

指標5の宿泊客に起因する環境への負荷量について、昨年度に町内の宿泊施設にご協力いただきながらモニタリング調査を実施したところ。結果の概要を4項目で整理しており、CO₂については、電力やガス等のデータを環境省が公表しているCO₂排出換算係数を用いて

推計し、宿泊者1人1泊当たり約30kgのCO₂が排出されているという推計であった。断熱等の省エネポテンシャルについては、建物の断熱性や気密性について調査を行い、断熱材が未投入であったり、窓ガラスが劣化していた施設も多く、それらに対応することで、エネルギー消費を現在の1/3～1/2程度削減できるポテンシャルがあるという結果が得られた。

節水については、上水道のデータを用いて推計すると、宿泊者による水消費量は1人1泊当たり約900～1,000ℓと、家庭での1人1日当たり利用量約200～300ℓの3～5倍となっており、温泉設備における加水や洗い場での利用等一律に比較できないところではあるが、節水のポテンシャルの余地はあるのではという結果が得られたところである。

ごみについては、排出量を住民と観光客でそれぞれ推計を行い、観光客に起因するごみの量が町全体の量の約30～35%を占めると推計されるという結果であった。

モニタリング調査の結果を踏まえ、環境負荷に関する指標として、事務局案として考えているのが、2028年度までに宿泊者1人1泊当たりCO₂排出量をコロナ前比44%削減するというものである。考え方としては、もともとニセコ町の環境モデル都市第2次アクションプランにおいて、長期目標として2050年にCO₂排出量を86%削減という目標を掲げつつ、中期目標として2030年に44%削減という目標を掲げている。その上で、宿泊客に起因する環境負荷は一定程度あるので、宿泊分野での取組を進めることで、宿泊分野においては前倒しでのアクションプランの達成を目指してはどうかと考えているところ。他方で、目標に設定はしないものの、ごみの削減や省エネ等の推進等環境負荷を削減する取組は積極的に推進していきたいと考えている。

ここまでの観光振興ビジョンのフォローアップであるが、環境負荷に関する指標の妥当性について、「もう少し高い目標を掲げた方が良いのでは」や「他にふさわしい指標があるのではないか」等をご議論いただいた後、観光政策の意見交換について説明させていただく形とさせていただきたい。

〈荒井委員〉

環境負荷に関する指標について、モニタリング調査を踏まえてとのことだが、宿泊客のCO₂排出量削減というのは、観光客にしてみれば非常にわかりにくいというか、言葉が悪いかもしれないが、指標を設定する上での自己満足的な要素があるようにも感じられる。設定が難しいのかもしれないが、観光客の方が帰るときにごみの量がこれだけ減っていたや、ペットボトルではなくマイ水筒を持ってきてもらえるように宿泊施設で対応しましょうといった観光客の方々に利用に直接結びつくニュアンスの方が、意外とシンプルイズベストでわかりやすいのではないかと。

〈菊井委員〉

目標の設定に関して、町民等に対しては例えば広報等いろいろな形で情報を常に発信していくことは可能だと思うが、環境等を意識していない観光客に対してどのように発信して、環境に配慮した観光を楽しんでいただくのが大事である。現在宿泊税の導入も検討されているが、ニセコ町の取組について、観光客に具体的にお示ししつつ、理解いただい

て、ニセコの将来のためには、環境に配慮した持続可能な観光地として、皆さんの協力が
必要なんだとアピールをしつつ、取組の成果を開示することで、観光客も自分たちの活動
がどうなったのかという振り返りをできるのではないかと。

民間事業者も設備投資がなかなかできない中で、ある程度省エネ改修等を順次やっ
ていっているところもあるが、積極的に取り組んでいかなければならないという感覚は持
っていて、行政と一体になって、国の補助などを有効活用して取り組んでいきたいと考
えているので、とにかく情報開示というものが重要になってくると考えている。

数値設定については、観光の目標だけが高くなりすぎると、他の計画等にも影響を及
ぼすと思われるので、数字的には妥当ではないかと。

〈高久委員〉

SDGs 未来都市に選ばれているニセコ町、日本としても温室効果ガス及びCO₂の削減とい
う目標は、そこに向かっていくというメッセージとしてはわかりやすいのではないかと。海
外の特にヨーロッパでは国レベルで申し入れられているところもあると思うが、日本
の現状を見ると、普段の生活の中でどれだけ排出しているのかということについての意
識がそこまで高くないのではないかと。町だけでなく、例えば事業者単位、スキー場単
位での数値を算出することで、住民や観光客がCO₂と近い距離感になり、それが国の
施策や補助金にも繋がるという認知が広く浸透する上では重要だし、カーボンオフ
セットのような自然に戻す上での金銭的な部分について今後明らかにしていくこと
も大事なことと感じている。

〈谷田委員〉

観光消費額や観光客満足度について、毎年データに基づいて算出されているとのこと
だが、観光消費額が2022年度の方が2019年度よりもかなり多いというのにびっくり
したところ。

CO₂の削減という目標値について、環境を守るいろいろな取組が最終的にはCO₂の削
減に繋がるので目標の設定についてはいいと思う。目標を設定した場合、住民や事
業者はもちろん、観光客にも理解いただく必要があると思うが、我々もカーボン
オフセットのプログラム等を営業しても、CO₂は目に見えないので、どれくらい減
らすのか、減るからどうなるのかといったご質問をいただくこともあり、正直あん
まりわかってもらえないのが現状である。大きな目標として44%削減というの
は、数字としてははっきりしているのでいいと思うが、CO₂が減る＝環境にどうい
う影響があるのか、例えばこのまま増えると数十年後には雪が降らなくなるとか
冬が1ヶ月短くなるかもしれないが、44%削減することで数十年後ではなくて数
百年後になりますよといった、一般の方にもわかりやすく、こういった影響があ
るということを示せば、より一層の理解に繋がるのではないかと。

ブッキングドットコム調査で環境に配慮している宿泊施設・目的地がお客様に選
ばれるという結果が出ているので、ニセコでこういう取組をやっているものでぜひ
来てくださいや、こういう取組をやっていることで他の観光地よりも素晴らしい
目的地ですとお客様にアピールできるような観点も考慮するとよりよいのではない
かと感じた。

〈桑添委員〉

町内のいろいろな委員会に携わらせてもらって、花壇植えのボランティア等の現場で感じるのが、商工会員が増えていても、女性部や青年部等実働で動く人が減っているということ。これまで最前線でやられていた方が高齢化してきて、ちょうどバトンを交換するタイミングかもしれないが、町に直接関わる人が少ないと感じるので、ここが何とかならないかなというのの一つ思うところである。

森林や住宅等の話も聞く中で、ニセコは自然がいいと言われるが、その自然を本当に理解しているのかと感ずることがある。観光地で開発を進めると利益が出る一方で、破壊もあるので、どこかでバランスをとるためには、自然とは何なのかを理解する必要があるが、みんな自然に対して理解が低いのかなと思っている。私が今把握しているのは、森林を伐採することによって、土のネットワークがリセットされ、悪循環に陥るということで、気候変動や大雨による洪水等の災害が増えているのは、それが要因だと考えられる。なので、もう1度足元を見る機会が必要だと思うし、スローガンだけでなく、ニセコ町にこれからも住み続ける人ができることを明確にすることが大切ではないか。

〈高井委員〉

コロナを経て観光と環境を繋ぐ何かができないかなということで、少しずつ環境を考える観光であるべきだと自身のお店をやる中でもそう感じるようになったところ。指標等を伺って、目標としてニセコ町が環境を考える観光を目指しているというメッセージが町民、事業者には伝わると思うので、早い段階でそうしたメッセージが伝わると良いのではないか。

これまではそうしたことを考える時間があったものの、今年に入って観光客が戻ってくる中で、人手不足やオーバーツーリズムということもあり、環境を考えたいけれど、目の前の対応に忙殺されて、なかなか考えられないというのが現状であるが、まずはメッセージを掲げることで町全体で意識を共有するというのが大事ではないか。

〈若杉委員〉

環境負荷に関する指標の設定について、環境未来都市宣言をしているニセコ町として、CO₂を削減しますというメッセージを打ち出したときに町民の方はもちろん、特にニセコ町にいらっしゃった方がどこかで目にする機会がそもそもあるのかがまず気になったところ。

CO₂の削減というのは、ごみの削減しか方法がないのかというのが2点目で、排気ガスについてあまり触れられていないような気がして、別の審議会例えば千歳からニセコに車で来るときに、どれだけのCO₂を排出して、それに対してどう対応するのかといった議論があったところ。CO₂削減というと、公用車のEV化や町民の自動車がCO₂を出さないようにするための対策費用の紹介、EV車の充電のための電気スタンドに関する情報等町としてもっと情報を発信した上で、目標設定をしていくというのが重要ではないか。

〈下田委員〉

目標設定について、先程も話にあったがCO₂は目に見えないものなので、ある程度の設定があればいいのではないという理解である。その上で、CO₂の排出量の削減というのは少し腑に落ちなくて、むしろ森林整備が進むことに伴うCO₂の吸収量の方が腹落ちするのではないか。選ばれる観光地を目指すという中で、誘客の推進とCO₂の排出量削減は相反する課題であり、今なお宿泊施設の建築も進んでいるので、1人当たりの排出量を削減できても、総量で増えるのではと思うところである。電力についても、電源構成で例えば地熱発電等もどうなんだろうという状況の中で、身も蓋もない言い方かもしれないが、ほどほどの設定でいいのではないかという印象である。

算出の根拠等はそこまで詰めすぎずに、むしろ観光で生活が豊かになると思う町民の割合の目標について、具体的にいえば観光で生活が豊かになった、収入が上がったと思う町民の割合のような目標の方が本当はわかりやすいのかなとも思う。

大事なことは観光は地域の生活等を豊かにする手段の一つであり、そのために環境負荷をどうするのかという考え方もあると思うので、住民の生活満足度に実感がわいてくると、地域づくりのメッセージになっていくのではないか。

〈川埜係長〉

委員のみなさまからいただいたご意見の中では、この後の観光政策の意見交換の部分で参考にすべきヒントがあったので、参考にさせていただきたい。

谷田委員から環境に関するPRがなかなか刺さらないというお話があり、今年度商工観光課でアンケート調査を実施していて、まだ速報値のため資料としてお示しできる段階ではないものの、そのアンケート調査でも、ニセコを訪れる観光客の方について、日本・海外あわせて約400サンプルとっているが、やはり海外の方がよりサステナブルツーリズムに関する関心が非常に高く、具体的には、サステナブルな旅が重要かどうかという問いに対して、重要と回答した割合が日本は3割程度であったのに対し、海外の方は9割で、実際に行動に移すというような結果であった。

アンケート調査から特にインバウンドの方に対しては、サステナブルな取組が必須という状況と判明したので、ニセコ町の魅力をしっかりとPRできるような発信の仕方を検討していきたいと考えている。

アンケートの詳細については、クロス集計等の分析をした上で、委員のみなさまに共有させていただく予定である。

【観光政策の意見交換について】

〈川埜係長〉

観光振興ビジョンにおける3つの基本戦略に紐づく9つの施策の方向性について、昨年度及び今年度の取組を、商工観光課の取組に加えて、観光協会、町内の事業者、町民の方、役場の他の課等で取り組んでいるものも含めて、ポイントを絞ってご紹介させていただく。

施策の方向性1-1：季節変動の平準化と雇用の安定ということで、平準化については、ニセコ・倶知安の両観光協会が広域的な取組として観光庁の補助を受けて2カ年かけて取

り組んでいたり、ニセコの観光協会では教育旅行、修学旅行の強化に取り組んでいて、コロナ禍で修学旅行需要が海外から国内に移行したこともあり、2022年度の実績は約50件、約7,000人と2018年度の約10倍であった。

聞き慣れない言葉かもしれないが、特定地域づくり事業協同組合制度の検討を進めており、平たく言うと、地域で組合を作って、その組合が人材派遣を行うというものである。組合が労働者を通年雇用して、例えば夏は農家で働いて、冬はスキー場で働くというような調整を組合が行い、その運営費の半分を国が支援するというものであり、観光協会、商工会と連携して組合の立ち上げについて検討を進めているところである。

他にも潜在的労働力の掘り起こしということで、部分的な労働力ではあるが、スキマバイトを展開する会社と連携に向けて調整を進めているところである。ニセコ町の町民ですでに200人の登録があり、事業者ベースでもホテルを中心に10社程度活用されているとのことである。倶知安町の宿泊施設でも求人に対して87%の応募があったようで、地元の方のみならず札幌圏からも、お金ではなく働く経験を積みたいという方がいらっしまったとのこと。すでに制度は確立しているので、町としては、アクティブシニアの方や、子育てが一段落した主婦の方等にアプローチして、地元で働いて生活を少しでも豊かにしていただくような取組ができればと思い連携を検討しているところである。

施策の方向性1-2については、昨年度からe旅納税の取組を進めていて、納税額の3割が地域で使えるクーポンになるというもので、町内事業者のご理解もいただきながら、現在22店舗で使えるようになっている。倶知安町で先行していて、昨年度数千万円の寄付があったとのことで、企画環境課にてe旅納税が使える事業者の拡大と、観光客への周知を強化しているところである。

また、今年度町内の複数事業者が連携して活用できる補助制度を新たに創設しており、1件の上限は100万円であるが、4/5という高い補助率を設定させていただいている。

施策の方向性1-3については、まさに高井委員が中心となって取り組まれているNIS-ECOプロジェクトということで、脱炭素やSDGsに配慮した旅行商品の開発、寄付付きお土産の販売等を行っていて、寄付については、ニセコ町の森林保全に活用されるという取組である。

施策の方向性2-3について、二次交通が地域の大きな課題ということで、7月15日から2年目のスカイバスの運行が始まっていて、冬においてはこれまで同様周遊バスの運行を予定している。また、カーシェアの実証導入も7月から始まっていて、駅1台、町民センター2台の3台体制で実証を行っており、ヒラフエリアではチャトリウムニセコが1台導入しているところである。また、冬季のタクシー不足対策ということで、ニセコ・倶知安両町で連携して、東京や札幌にあるタクシーの車とドライバーをセットでニセコエリアに来ていただいて運行していただくといった取組を現在調整しているところ。

施策の方向性3-1：観光客の環境配慮型行動の喚起については、先程委員のみなさまからご意見いただいた箇所を中心に取組を強化していきたいと考えている。

施策の方向性3-3について、起業支援補助の充実ということで、商工観光課でにぎわいづくり起業家等サポート事業補助という起業に使える補助制度を運用していて、これまで56件の補助をさせていただいており、今年度に制度拡充を行い、起業、事業拡大、事業

承継等を支援していければということで取組を進めている。

政策の方向性に基づく昨年度及び今年度の取組に関する説明は以上で、こちらについてあらためてみなさんからご意見やコメントをいただきたい。

〈荒井委員〉

バス会社として二次交通の概況等をご報告させていただくと、新聞でも一面になるくらいバスの乗務員不足は深刻で、減便をするところも増えてきている状況である。タクシー不足も町の課題ということで、2種免許所持者がいなくなっているというのが現状である。他方で乗務員不足は10年前からの課題で、採用を頑張ってきたものの、状況は変わらずむしろ減少しているという中で、今いる乗務員の有効活用という方向に方針転換を始めているところである。

観光客を運ぶという観点でも二次交通の充実は非常に大事であるが、バスだけでなくあらゆるところで人材不足が課題となっているので、2種免許がなくても観光客を運べるような仕組みづくり等を考える時期に来ているのではないかという気がしている。

〈菊井委員〉

ビジョンについて、目標を作るのは簡単である一方で、どのように取組を進めていくのが非常に重要であるが、説明を聞いて、かなり細かい部分まで踏み込んで取り組まれているなというのが率直な印象である。これで完結ではないと思うので、できたもの、できなかったものをしっかりフォローアップしつつ、こうした活動を審議会だけではなく、草の根での広報活動をしっかりと行い町民に浸透させていくのが非常に重要ではないか。

思った以上にいろいろな取組をされている中で、事業者や町民がうまく活用できるような制度があってもなかなかそれを知らないという現状があるので、その辺りをしっかりとプロモーション、アピールしていただきたい。

〈高久委員〉

各戦略で他地域や国を巻き込んだような取組をされていて、こうしてご報告いただけることが素晴らしいと思う。来ていただいたお客様の対応をするその人がニセコの自然や文化を最大化させていく中で、先程の夏は農家、冬はスキーという取組がどんどん進んで、観光事業者が夏も同じ業務に携われるようになればさらに次のステップに進めるのではないか。冬の準備として、夏の間に従業員のレベルアップやこうした会議等を行うわけだが、一つの会社ないしは一つの業種形態の中で1年間継続した取組を実施できれば冬と夏双方が高まるのではないか。そうした年間の取組を進める事業者や従業員の教育を行える事業者に対して補助を行う等の仕組みづくりがあるとよいのではないか。ニセコを訪れる人の主要因はやはり雪だと思うが、ニセコを訪れて、人が良い、自然が良い、食も良いとなれば夏の誘客にも繋がると考えられる。

かつてはなかったような高級なコンドミニアムが増えて、冬場は満室だが、夏や秋は空室があると思われるし、そうした外国人が来ている文化に対して反対に日本人が直接触れる機会にも繋がると思うので、冬向けに整備されたものを夏に活用することもよいのでは

ないか。

〈谷田委員〉

スキマバイトとの連携について、うちでも取り組んでいて、いろいろと成果が上がっていると聞いているので、非常にいいことであると思っている。

特定地域づくり事業協同組合制度について、事業者ごとに忙しい時期が違う中で、うまく組み合わせられればというのはいい話だと思う。その上で、特定地域とついているので難しいかもしれないが、うちでも実現すればいいねと話しているのが他地域との共同で、例えば沖縄だと夏が忙しい一方で冬は暇で、北海道はその逆という感じで、最近は一概にそうとも言えないのかもしれないが、地域によってはそうしたところもある中で、人材が必要な時期が異なる地域、異なる事業とうまく連携できればいいのではないかなと思ったところである。

季節変動の標準化について、MICE や教育旅行、特別な体験等を閑散期にも楽しんでいただけるようにということだと思うが、いろいろなアクティビティに関して人数規模が少し大きくなると対応できないものが結構あって、それで断念してしまうという声も聞くので、何百人も一斉にというのは限られると思うが、大人数でも楽しめるコンテンツが増えつつ、さらに雨の日に楽しめるコンテンツが充実してくるとうれしいと考えている。

交通の充実について、先程も話にあったが、いろいろな方から話を聞いていて、2種免許を持っていなくても、アプリで一般の方が車でお客様を別のところに運べるようなアメリカのUberのような制度について、すぐにどうこうできる問題ではない旨重々承知しているが、ニセコだけの問題ではないと思うので、そうした制度の検討について、道や国にご意見を届けてもらえると非常にありがたい。

〈桑添委員〉

観光というと英語や接客等も大事だが、農業にも重きをおいてほしいと以前町内の農家の方に言われたところ。食がなかったら観光振興にも繋がらないと思うので、ぜひ観光にもっと入れ込んでいただきたい。

倶知安町とニセコ町って違うと思っている、外から見ると同じニセコエリアなので混同されがちだが、ニセコ町はニセコ町のよさがあるし、そのよさをもっと出してほしい。倶知安町に引張られるような形ではなく、人口の規模感も全然違うので、ニセコ町だからという心を持ってほしいし、ニセコ町がいいと言ってくれる人は確実にいるので、そういうところは大切にしていきたいと思う。

〈高井委員〉

ニセコ町にあるたくさんの課題に対して、ニセコ町として動き出しているということがすごくわかりやすかった。その取組が観光審議会でも取り上げられたことによって、町民や事業者にも浸透していくのかと思うが、みんなが共通して抱えている不安に対して、町が動いているということが伝わってきたので、それが町民に伝わっていくことで、行政も民間も一緒になって、みんなが課題解決に取り組んでいく形になると良いのではと思っている。

〈下田委員〉

コロナ前から慢性的にあった人手不足について、コロナ禍で一層観光業から人が離れてしまったという印象がある。平準化で雇用を継続しようと思っても、地域から離れていってしまうという現状があって、それでもニセコに住み続けるスタッフの雇用確保として、いろいろな業種にお手伝いに行かせてもらって、そのご縁で3シーズン続いたコロナでもまたお声がけいただくということがあった。実際にお手伝いをきっかけに転職する人もいて、それはそれでいいと思うし、またいつかパンデミック、災害、風評被害等が発生した際に、どこかに手伝いに行けるような潜在的労働力の掘り起こしが、観光業だけでなく農業や建設業等も巻き込むような形で行われると、どこにどういう人がいるのかが整理されて、意外という人数で賄える場合もあるのではないかと考えている。あとは、地域おこし協力隊等の移住需要のある方の活用は、ニセコ町は人気も高いので、より積極的な検討がなされるとよいのではないかと。

取組を進めるための財源について、宿泊税の合意形成ももちろん大事だが、やるのであればやっつけてしまえという思いが個人的にあるので、財源確保についても並行して進めていけばよいのではないかと。

〈川埜係長〉

いろいろとご意見いただき感謝申し上げます。議論の前段で、観光振興ビジョンで保留になっていた指標5：宿泊客に起因する環境への負荷量について、昨年度のモニタリング調査を踏まえて事務局案をお示したところであるが、事務局案通りで設定させてよいか。

（「よろしい」との発言あり。）

見せ方については、事務局として、取組の周知方法も含め検討し、皆で取り組んでいけるように進めていきたい。

※以下、審議会当日は欠席だった石黒委員からいただいたコメント。

〈石黒委員〉

指標1：観光消費額は、今年度は市場構造が特異な可能性もあるので、2025年まで推移を見守る方がのぞましく、為替の影響もあり、金額ほどの効果や実感がないということも想定される。

指標4：リピーター率について、リピーター率を下げるというのは全方位戦略へのシフトかと思うが、環境への取組等を強化するのであれば、リピーター率を維持して「知っている人に選ばれる」ことを目指していくべきではないか。

指標5：宿泊客に起因する環境への負荷量について、UNWTOのBest Tourism Villageでも廃プラが指標となっており、事業者や町民の廃プラも指標に設定してよいのではないかと。また、二次交通の課題意識を明確化する意味でも、公共交通でニセコを訪れる方の割合を指標にすることも有効ではないかと思うし、ヨーロッパの山岳リゾートではすでに指標化されているところ。

基本戦略1-2について、フードフットプリント／マイルーājやオーガニック食材の提供

を行っている事業者を支援、評価、可視化する仕組みも重要ではないか。ニセコ町独自の認証制度を作らなくても、グローバルな認証制度の導入を検討することでもメッセージ性は強まると考えられる。

基本戦略1-3で、宿泊税の検討が具体化したことを明記すべきではないか。世界的には環境×観光の文脈でエリア課税も進んでいて、10月には広島県宮島でも徴収が始まるところ。地球環境、地域社会へのコミットを継続的に拡大させていくために、宿泊税は議論していくべきだし、宿泊事業者のみなさんが宿泊税に協力くださることは地域への大きな貢献である。

基本戦略3について、全体的にソフトの取組が多い印象。観光はハードの側面もあると思うので、町民、事業者と議論を積み重ねた上で、町内での持続可能な観光を具現化する、あるいは旅行者の行動をグリーンなものに促すような施設・空間等についても検討しても良いのではないか。

5 その他

事務局から、7月20日以降の審議会のメンバーに関する案内と今後の審議会に関するお知らせがあった。

以上